

平成27年度学校評価（慶應義塾高等学校）

本校の教育理念	学問の修得に基づいた「独立自尊」の精神を育て、気品と智徳を備えた生徒を育成することを目標とする。
本校の特色	本校は、創立者福澤諭吉の精神に基づき、小学校から大学に至る一貫教育において、中等教育の一画を担うものである。従って、在校生が慶應義塾大学へ進学することを前提として教育方針は定められる。また、本校は、大学と隣接しており、カリキュラムあるいはクラブ活動などにおいて、大学との密接な連携がなされる。一貫教育校として、大学そして小・中学校との連携は学校教育の全ての面に関わるもので、今回の学校評価においては、特別の項目として取り上げてはいたないが、個々の項目にその要素が含まれる。
学校評価の経緯と今年度の評価対象	本校では、平成20年9月に初めて学校評価委員会を設置した。今年度は必修科目・選択科目について点検・評価を行う。達成度については担当者判断、または生徒によるアンケートを実施し、A～D段階で表示する。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
教育活動					
必修科目	国語 読み取る力と表現する力の向上を図る。古文、漢文では先人たちの想いを知り、現代につながっていることを理解させる。	できるだけ多くの文章に触れ、読解力、表現力を養う。	ある程度の目標は達成できた。	A	読解力、表現力のさらなる向上をめざし、より多くの作品を読ませていきたい。
	地理歴史 日本と世界の歴史と生活、文化等の地域的特色について、理解を深める。	日本と世界の歴史については史資料、地理については地図や統計を用いて論理的に考察する。	担当者の専門性を生かして興味関心を引き出し、論理的な考察力を高めることを概ね達成することができた。	B	時間的余裕が無く、掘り下げる内容に差が生じる点および生徒の知識量の差をいかに埋めていくことができるか、引き続き工夫を図っていきたい。
	公民 現代社会における倫理的課題と近現代の日本・世界の諸問題を扱いながら、現代社会を俯瞰するのに必要な分析視角を習得させる。	1年次の授業において、多くの事例を取り上げ、問題発見・解決能力を涵養する。必要に応じて発表や演習も取り入れる。	本年度より実施された3年選択科目（政治・経済・法律等）への展開を見据えた実践ができた。	B	3年選択科目の設置に伴い、1年次の現代社会において3年間の土台となる問題発見・解決能力を養成することが今後も望まれる。
	数学 高等学校数学の基礎となる内容から高度な内容まで、幅広く取り扱い、思考力を鍛える。	演習の時間を多く取り入れ、自分が手を動かすことで理解が深まることを実感させる。	基礎学力の向上、より興味のある生徒には発展的学習等、適宜実力に応じた指導ができた。	A	引き続き基礎学力の定着を確かなものとし、さらにきめ細かい指導が出来るように指導案を充実させる。
	理科 科学の基礎知識と科学的思考法を伝授し、自然界の事実を客観的に解明しようとする学習態度を身につけさせる。	詳細な実験・観察に基づく実習を通して生の自然現象を学ばせ、体系的な講義により長く記憶に留まる科学的知識を習得させる。	実験や観察を多く取り入れ、講義を体系的に行った。理科が基礎的で身近な学問である事を理解させ、豊かな知識を習得させた。	A	より多くの科学的知識を定着させ独創的な発想・学習、科学現象に関して定量的な扱いができる様に、授業項目や実験・観察の見直しを進める。
	保健体育 身体活動を通じ、公正、協力、責任など基本的な態度を身につける。健康安全について、各自が関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を育てる。	運動の合理的な実践を通して、体力の向上と真のスポーツマンシップを身に付ける。 BLS等を通じ、健康や安全に対する関心を高める。	取組目標は概ね達成できた。 BLSに関して、公的な修了証を取得することができた。 高度な授業内容を展開でき、充実していた。	A	数件の怪我が発生し、安全・危機管理への配慮を行う必要がある。 BLS教育を継続して実施していきたい。 生徒間の体力・技能に大きな差があり、個々に対応した指導も工夫していきたい。
	芸術 個性豊かな表現力と幅広い知識や鑑賞能力を伸ばす。	基礎的な表現方法の実習と鑑賞の授業をバランス良く取り入れ芸術的感性を高める。	充分とは言えないが概ね達成できた。	B	引き続き芸術への理解と興味を深まるよう創意工夫を図りたい。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
必修科目	外国語 英語 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく伸ばし、総合力を高める中で、異文化理解を深める。	教科書、単語集、視聴覚教材を用いて、実践的なコミュニケーション活動なども行いながら、向上心と意欲を高める。	生徒のレベル差がみられる部分もあったが、4技能を意識したバランスの良い授業を展開することができた。	B	生徒がよりアウトプットをできるようにするため、授業展開などを工夫・改善していきたい。
	第二外国語 各言語の基本的な発音・文法を習得する。また、各言語を通して異文化への理解を深める。	全くの初心者であることを前提とする。教科書とともに視聴覚教材なども積極的に使い、言語ならびに文化への関心を高める。	各言語において多少の差はあったが、基礎力を確認することができた。	B	生徒の定着をよりよくするため、授業展開などを工夫・改善していきたい。
	家庭 家庭生活において主体的に行動できるよう、様々なテーマに触れると共に、基礎的な生活技術を習得させる。	衣食、子育て、高齢者介護の問題、家庭経済等を取りあげ、実習の機会を増やす。	生活にかかわる問題について考え、実習を通して基礎的な生活技術を経験させたが、十分とはいえない。	B	生徒の家庭生活に対する意識を高め、生活に必要な技術を習得させるために授業内容と方法を再検討する。
情報 問題解決の手順と方法を身につけるのに必要な対策について検討し、授業に反映させる。	問題に応じて適切な情報収集ができる力を養うような課題を用意し、理解の定着をはかる。	一定の成果を上げることができたが、情報収集能力を十分に身につけられない生徒が散見された。	B	与えられた課題を、生徒が自分に引きつけて考えられるような工夫をするとともに、教員間の意見交換をより綿密に行う。	
卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で分類を設定し、生徒の希望に応じた選択ができるようにしている。生徒各人が論理的思考を養い、表現力を身につけ、大学へ進学するための準備をさせる。 最終的に42講座を設置した。その内訳は、英語系2講座、社会系13講座、数学系3講座、理科系5講座、保健・体育系7講座、国語系3講座、芸術系（音楽・美術・映画）5講座、情報・コンピュータ系2講座、家庭・生活系2講座である。 優秀な卒業研究として13作品を選出した。 				
	国語 生徒が自分の好きなテーマを発見し、自発的に研究を深め、最終的に論文等の形にまとめる。	自発的研究への支援として、図書や映像の紹介や購読・上映会等を行ったり、進捗に応じて発表・意見交換の場を設けたりする。	生徒の興味関心をよくとらえ、各自の研究が発展的に進むよう指導助言できた。	B	卒業研究における成果を、今後の学業にどのように生かしてゆくか考えさせるとともに、研究を通して得られたであろう、新たな課題について継続的に取り組む姿勢を育てたい。
	地理歴史・公民 12,000字程度の論文を提出させる。それぞれのテーマに対して深い理解力を養うとともに、自主的に整理・表現する力を養う。	各自が関心を持つテーマの先行研究を踏まえて、自身の意見を構築させる。	資料収集、中間発表を経て、先行研究を踏まえた論文を執筆できた。		テーマの異なる生徒に共通する授業づくりに工夫の余地がある。早めに論文執筆に取り組みせる必要がある。
	数学 枚数・字数制限は設けないが、論文を提出させる。基礎的・応用的な知識を身につけ、論文を作成する力を育む。	各自のテーマごとに課題を見つけ出し、より良い解決策を考察する。	4月当初は目標が定まらない生徒が多かったが、年度末には全員が論文を書き上げた。		生徒の方向性が一人一人異なるので、指導がしにくい。もっと少人数で行うことができれば、生徒もさらに良い研究ができると思われる。
	理科 理科の各分野を題材に各自テーマを設定する。課題を与えることで、体験的に科学を理解する。	講義と実習をバランスよく配し、科学実験・観測や、文献検索・プレゼンテーションなどを通して、科学の方法を経験させ、研究活動を行う。	今までの学習内容を活かして、興味に沿ってテーマを設定し、実体験を伴った観測、データ収集を行い、それをもとに解析、考察を行った。		生徒のテーマに対応するために、測定器を制作・購入したが、興味の幅は広範であり、単年度の計画では対応できないこともある。研究の質を高めるための環境整備を引き続き行っていきたい。
	保健体育 12,000字程度の論文を提出させる。各自の興味関心に応じた研究テーマについて、主体的に研究させる。	基本的な講義を行った後、情報収集をさせる。中間発表でプレゼンテーションの機会を設ける。	履修者全員が情報収集、論点整理を経て研究論文を作成できた。		論点を絞る訓練の為にグループワーク、グループディスカッションを多く取り入れる。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
卒業研究	芸術 興味ある分野について自主的に調査・考察させ、10,000～12,000字の論文を書かせる。	対象とする時代や作家についての資料を集め、調べた内容を論文としてまとめ、場合に応じて創作を伴う。	各々のテーマに沿って研究が深められ、結論が得られた。生徒の達成感も高いものであった。	B	さらにきめ細かい指導を行うとともに、計画的な論文作成を行えるよう促したい。
	外国語 興味ある分野について、自主的に調査・考察し、12,000字程度の論文をまとめ上げる。 学んだ表現やルールを使用してクリエイティブな作品を作る。	文献を読み、調べることによって知識の幅を広げる。また中間発表や討論を行うことによって多角的な見方を身につける。	進捗や内容の深さに個人差はあったものの、それぞれが満足のいく論文を書き上げることができた。		論文への取り組み方などをより早期から意識付けることによって、論文の完成度を高めていく。
	家庭 自身が考えたテーマについて主体的に研究させることで、家庭生活への見識を深める。	先行研究を踏まえて調査を実施するとともに、発表・討論を通じて自分の意見を構築させる。	概ね達成することができたが、取り組み方には個人差が見られ、計画的に研究が進められない生徒もいた。		計画的に研究を進め、データ分析の時間を十分にとれるようにするために、個人面談を増やす等の工夫をする。
	情報 早い時期に研究テーマを見つけられるように促す。	既存研究の調査方法を明確に示すなどして、積極的に研究テーマを探すように促す。	担当者が変更になったにもかかわらず、比較的早い段階で研究テーマを決定した生徒がほとんどだった。		次のステップとして、研究内容に対する具体的な指導を積極的に行っていく。
<p>・受講した生徒にアンケートを実施した結果、取り組みに対する満足度（数字が大きい方が満足度が高い）は5…29%、4…49%、3…16%、2…5%、1…1%であった。</p> <p>・生徒が卒業研究に取り組んでよかったと感じた点（複数回答可）は、「今まで知らなかったことを知ることができた」が最も多く62%、次に「達成感があった」54%、「論文の書き方を学ぶことができた」54%となっていた。</p> <p>・生徒が卒業研究に取り組んで、こうすればよかったと思うこと（複数回答可）は、「計画的に研究を進めればよかった」が最も多く53%、次に「もっと内容を掘り下げればよかった」42%、「参考文献・データを増やせばよかった」39%となっていた。</p>					

安全管理

設備	教職員相互の協力を得て、定期的に教育施設・設備の保守・点検を行い、事故防止や安全対策を図る。	定期的に各教育施設の安全点検を行う。 必要に応じて設備の修繕・改善を行う。 熱中症・けが等の予防のための製氷機を設置する。	部室棟を中心に大掃除並びに点検を前後期各1回実施した。 老朽化した設備などその都度速やかに対処した。 日吉会堂に大型製氷機1台を設置した。	B	教育施設・設備の保守・点検を定期的実施する。 教職員の相互の連携を図り、今後予測される教育施設・設備の修理・改善を積極的に行う。
保健衛生	校内施設の衛生管理を行い、生徒の快適な学校生活と教職員の働く環境を整える。	年2回、環境衛生調査を継続的に実施する。 関係スタッフと相互に協力し、相談室の充実を図る。	環境調査を年2回実施し、教職員相互に問題意識を高めることができた。 必要に応じて、関係スタッフと相互に協力し、すみやかに問題の解決を図ることができた。	A	継続的に環境調査を実施する。 必要に応じて、保健衛生に関する情報を提供していく。
危機管理	非常時・緊急時に対応できる体制を作り、被害の拡大を防ぐ。	避難訓練を実施する。 教職員対象のBLS講習を実施する。 緊急時一斉連絡システムを継続する。 A棟、B棟、部室棟の鍵を新しいものに取り換える。	4月に学校全体で避難訓練を実施した。 夏休み前、教職員対象のBLS講習を実施した。 監督・コーチに対するBLS講習を実施した。 緊急時一斉連絡システムを継続した。 A棟、B棟、部室棟の鍵を取り換えた。	A	教職員も含めた各種講習会等を実施し、さらなる安全に対する意識の向上に努める。 非常時・緊急時の備品の補充を継続的に行い、その情報の共有を行う。

運営

<p>図書</p>	<p>さまざまな切り口の企画展示により、図書利用の活性化を図る。</p>	<p>定例の展示のほか、毎回違うテーマで展示を行う。テーマの決定から設営まで、スタッフ全員参加で取り組む。また、展示対象図書の貸出統計を取り、展示の効果を確認する。</p>	<p>定例のテーマを含め、2箇所の展示スペースで年間9テーマの展示を実施した。展示図書の貸出も伸びており、蔵書の掘り起こし効果もあった。徐々にノウハウも蓄積されてきている。</p>	<p>A</p>	<p>展示の飾付けの作業負担が大きいこと、テーマの選定が課題であるが、今後も生徒の関心を引き付ける工夫をしていきたい。また、書架の狭隘化が進んでいるため、コーナー書架の活用や古い本の除籍を進めていきたい。</p>
-----------	--------------------------------------	--	--	----------	--